

報道関係者 各位

2020年9月29日

公開講演会「ファンタジーの挑戦——もうひとつの世界を想像しよう」

2020年11月6日（金）日本経済新聞社 大阪本社

カンファレンスルームにて開催！

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園10-1）では、公開講演会「ファンタジーの挑戦——もうひとつの世界を想像しよう」を2020年11月6日（金）に日本経済新聞社 大阪本社 カンファレンスルーム（大阪府中央区高麗橋1-4-2）にて開催する運びとなりました。

【趣旨説明】

世の中が乱れると、ファンタジーブームが起きると言われています。フランス革命勃発後、人びとはファンタジーに夢中になりましたし、関東大震災のあともファンタジーが読まれました。ボッカチオの『デカメロン』はペスト禍のときに書かれましたし、『千一夜』最古の写本が成立したとされる14世紀前後は、中東地域でペストが猛威をふるった時期でした。

「みんな今を生きているって、想像しよう」とジョン・レノンは言いました。いま一人ひとりが、これからどう生きよう、世の中はどうなるのだろうと不安にかられているかもしれません。ファンタジーは、その問いかけに即答するようなものではありません。その役割とは、もうひとつの世界を想像してみることで、その可能性の中で日々を生きていくかけがえのなさを見つめることなのです。ファンタジーに思いを寄せることは、広い意味での想像力、創造力という人間に備った能力の一部です。

人間は、10万年ほど前に言葉を獲得したとされています。おそらくは時を同じくして、さまざまな生存戦略の一部として「虚構の世界を創る」能力も獲得したのです。この能力は他者をあざむくためだけでなく、他者とつながるためでもあったでしょう。自分ではどうにもならない事象を前にしてそれを理解し超えていく、たとえ超えられなくても見知らぬものをそばに置き直して楽しむために想像の世界を広げていったのではないのでしょうか。

ファンタジーという文学ジャンルが広く認められるようになったのは、比較的新しい時代のことです。しかしファンタジーそのものは、人類が言葉を獲得してからずっと人間の営みの一部でした。言葉で世界を発見していく文学行為としてのファンタジーについて、その創造の現場で考えてみたいと思います。



みんぱ 公開講演会

ファンタジーの挑戦

もうひとつの世界を想像しよう

2020.11.6 金 18:30～20:30
(17:30 開場)

組合司会 佐藤 厚子(元NHK放送文化センター) 司会
 「アツジンはなぜ世界を創ったのか? ——ファンタジーの文明史」
 西尾 哲夫(国立民族学博物館 教授)
 「妄想が世界を創る！」
 森見 登美彦(作家) × 西尾 哲夫(司会)
 主催 日本経済新聞社大阪本社カンファレンスルーム
 大阪府中央区高麗橋1-4-2
 定員 100名(定員超過は抽選) 抽選日 10/29(金) 無料
 ※本報は会場内での撮影のほか、SNS(ライブ配信 録音録画中心)でも配信いたします。
 ※新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては開催の中止、形式的変更等となる場合もあります。

主催  国立民族学博物館 National Museum of Ethnology 日本経済新聞社
 後援 岩波書店

【基調講演】アラジンはなぜ世界を魅了するのか？——ファンタジーの文明誌

西尾 哲夫(国立民族学博物館・グローバル現象研究部・教授)

【対談】妄想が世界を創る！

森見 登美彦(作家) × 西尾 哲夫(国立民族学博物館・教授)

【総合司会】

相島 葉月(国立民族学博物館・グローバル現象研究部・准教授)

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。

昨年度は、2019年11月15日(金)に日経ホール(東京)にて「アニメ「聖地」巡礼——サブカルチャー遺産の現在」を実施しました。

【プログラム】

| | |
|-------|---|
| 17:30 | 開 場 |
| 18:30 | 開 会 渡邊 園子(日本経済新聞社・大阪本社編集局長) |
| 18:35 | 挨 拶 吉田 憲司(国立民族学博物館・館長) |
| 18:40 | 【基調講演】西尾 哲夫(国立民族学博物館・教授) 「アラジンはなぜ世界を魅了するのか？——ファンタジーの文明誌」 |
| 19:10 | 休 憩 |
| 19:30 | 【対 談】森見 登美彦(作家) × 西尾 哲夫(聞き手) 「妄想が世界を創る！」 |
| 20:30 | 終 了 |

【登壇者紹介】

**西尾 哲夫（国立民族学博物館・グローバル現象研究部・教授）**

1958年、香川県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士（京都大学）。現在、人間文化研究機構・国立民族学博物館教授。総合研究大学院大学教授。主な著書に『アラビアンナイト——文明のはざまに生まれた物語』（岩波新書、2007年）『世界史の中のアラビアンナイト』（NHK出版、2011年）『ヴェニス商人の異人論——人肉ポンドと他者認識の民族学』（みすず書房、2013年）ほか。アラブ遊牧民の言語や文化に関する言語人類学的研究やアラビアンナイトをめぐる比較文明学的研究をしている。近著の『ガラン版千一夜物語』（岩波書店、2019～2020年、全六巻）は各紙の書評等で話題となっている。

**森見 登美彦（作家）**

1979年、奈良県生まれ。京都大学農学部卒、同大学院農学研究科修士課程修了。2003年、『太陽の塔』で日本ファンタジーノベル大賞を受賞し、小説家デビュー。2007年『夜は短し歩けよ乙女』で山本周五郎賞を、2010年『ペンギン・ハイウェイ』で日本SF大賞を受賞する。『四畳半神話大系』『有頂天家族』『有頂天家族 二代目の帰朝』はTVアニメ化もされた。ほかの著書に『四畳半王国見聞録』『聖なる怠け者の冒険』『夜行』等がある。最近の『熱帯』はアラビアンナイトにインスピレーションを得た実験的小説で、国立民族学博物館の教員を主人公のモデルにしている。なお本作品は直木賞候補作になるとともに、高校生直木賞を受賞した。

【総合司会】

**相島 葉月（国立民族学博物館・グローバル現象研究部・准教授）**

1977年、埼玉県生まれ。オクスフォード大学大学院東洋学研究科博士課程修了。専門は社会人類学、中東研究、現代イスラーム思想。エジプトの首都カイロにて、中流層にとっての教養や身体文化についての調査研究を行う。主な著書として、『*Public Culture and Islam in Modern Egypt: Media, Intellectuals and Society*』（IB Tauris、2016年）、「第3章イスラーム復興——西洋モデルに依存しないイスラーム的近代の試み』『大学生・社会人のためのイスラーム講座』（ナカニシヤ出版、2018年）などがある。

【開催概要】

| | |
|-------|---|
| 講演名 | 公開講演会「ファンタジーの挑戦——もうひとつの世界を想像しよう」 |
| 日時 | 2020年11月6日(金) 18:30～20:30(開場17:30) |
| 会場 | 日本経済新聞社 大阪本社 カンファレンスルーム (大阪市中央区高麗橋1-4-2) |
| 定員 | 100名(先着順) |
| ライブ中継 | 本講演は会場内での聴講のほか、WEBライブ中継(要事前申込)でも参加頂けます。 |
| 主催 | 国立民族学博物館、日本経済新聞社 |
| 後援 | 岩波書店 |

【会場】 日本経済新聞社 大阪本社 カンファレンスルーム
要事前申込(定員100名・先着順)／無料

【ライブ中継】 要事前申込(定員なし)／無料

【申込み方法】

申込方法 会場へ参加ご希望の場合もライブ中継参加ご希望の場合も、
国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って
必要事項をご入力ください。

* 参加申込をいただいた方の個人情報は本講演会でのみ使用いたします。

<https://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/alp/20201106>
2020年10月5日(月)受付開始予定

問合せ先 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 研究協力課
TEL 06-6878-8209 FAX 06-6878-8479
メールアドレス koenkai@minpaku.ac.jp

新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては開催中止、形式の変更等となる場合があります。

【お問合せ】 国立民族学博物館 総務課 広報係
電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press